

(別添4)

【滝沢市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)において示されている「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進するために、以下の学びの姿を目指す。

(1) 「個別最適な学び」について

学習指導要領に示されているように、指導方法や指導体制の工夫改善により「個に応じた指導の充実」を図る。また、ICT環境の活用、少人数によるきめ細やかな指導体制の整備を進め、「主体的・対話的で深い学び」を実現することにより、自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができる児童生徒を育成する。

(2) 「協働的な学び」について

探究的な学習や体験活動を通じ、児童生徒同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、自ら問題を発見して課題を設定し、解決していく児童生徒を育成する。

2 GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想における1人1台端末の整備、校内LANネットワークの構築業務が完了し、令和3年9月1日より児童生徒用タブレット端末の使用を開始したところ、既存のインターネット回線では人数の限界があり複数学級での利用ができないことが判明した。速やかにインターネット回線の増強及びプロバイダーの見直しを行うことで対応した。その後も、ネットワーク保守管理業者を通じて、各端末でのインターネット速度の上限を10Mbpsから20Mbpsへ変更や、比較的Wi-Fi電波の混雑状況が少ない5GHz帯を優先的に使用されるよう変更し、GIGAスクール構想の実現に向けて通信ネットワークの整備を実施してきた。しかし、「学校規模ごとの当面の推奨帯域」(文部科学省・令和6年4月)を超える学校数は2校しかなく、総学校数15校に占める割合は13.3%であり、また、「ネットワークが遅い」と回答した学校は73.3%であったことから、ネットワークアセスメントが必須であるという課題が判明した。この課題に対してはネットワークアセスメントを早期に行い、その結果を踏まえ、効果的かつ経済的なネットワークの整備を行う。

一方で、授業においては、OS標準のソフトウェアの他に、各学校が個別にソフトウェアのインストールを行い、授業において活用しており、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実に端末を活かしている。

3 1人1台端末の利活用方策

上記の1及び2を踏まえ、端末の利活用を以下の通り取り組む。

(1) 個別最適な学びと協働的な学びの充実

自分の特性や理解度に合わせて自ら調べ、考えをまとめ、表現するなどの課題に取り組めるような学習者用デジタル教科書の導入やデジタルドリルの導入を進める。

また、学びの質を高めるために、Microsoft Teamsの活用を今後推進し、児童生徒同士がお互いの資料を参照するにとどまらず、教員との間においても相互に内容を確認し編集することを可能とさせる。

(2) 誰一人取り残さない児童生徒の学びを保障

不登校児童生徒、外国人児童生徒、別室登校児童生徒や障害のある児童生徒等、いわゆる個に応じた指導が必要な児童に対して、端末を活用しての教育相談や授業のアーカイブ配信、読み上げ教材の活用等、児童生徒の特性に応じた端末環境を整備し、学習効果を高めるとともに、誰一人取り残さない児童生徒の学びを保障する取り組みを行う。

(3) 研修の充実

対象13校において、校内研修等で1人1台端末の活用について取り組んできたが、学校内でも教員による活用の差が見られる。(1)と(2)を推進していくためには、ネットワーク環境やデジタル教材などの整備の他に、教員向けの研修を充実させる必要がある。今後は教員の習熟度に応じた研修機会を設け、教員に対しても個別最適な研修を図る。

(4) 端末の確実な更新

これまでの課題やこれから解決する必要がある課題については、児童生徒の1人1台端末の利活用が前提条件であるため、令和8年度に予定しているセカンドGIGA端末は、実機体験や県からの情報提供を受け適切な更新を行う。また、サードGIGA端末の更新(セカンドGIGAから5年後を予定)についても、関係機関等と情報共有を行いながら、児童生徒の学びに空白が生まれないように確実な端末の更新を行っていく。